**県職場・団体対抗戦　県大会対局規定変更　2018/10より、追記変更2018.12案**

対局規定

① 予選は、抽選により2ブロックに分かれ、３回戦のリーグ戦を行う。初戦は同一地区が対戦しないように配慮する。上位２チームが決勝トーナメントに進出する。決勝トーナメント１回戦は、予選１位対他ブロックの２位の対戦とする。

② 予選成績順位の決め方。１．チーム勝数　２．チーム個人勝数合計　３．大将勝数

４．副将勝数　**５．直接対戦**　６．初戦より連勝　７．抽選。

③ 予選・決勝トーナメント1回戦の対局時間は、各自持時間25分とし以後30秒の秒読みとする。決勝・3位決定戦は、各自持時間30分とし、以後30秒の秒読みとする。

④ 先後は、大将の振り駒で決める。副将・先鋒は、大将と交互の先後とする。

⑤ 入玉判定は、27点法による。同点の場合は後手勝ち。「入玉宣言法」により「宣言」することができる。（下記掲載の資料参照のこと）。千日手は先後を交代して指し直す。時計の位置は同じ。ただし、残り時間が、10分に満たない場合は10分まで加算する。ただし、進行状況で持ち時間を事務局で決定する。

⑥ 将棋連盟ガイドブック掲載の反則は、即負けとする。指摘は対局者・審判・事務局・観戦者だれでもかまわない。反則と思われる行為（マナー違反・時計の押し間違い等）は、即負けとはしませんが、何度も行った場合は、反則とする場合がある。本大会は、決勝戦を除いて記録係を配置しませんので、反則を確認できず、投了により終局となった場合は、投了した者が負けとなる。（ただし、感想戦等で反則を確認できた場合は、反則した方が負け。）

⑦ 対局時計は、対局者同士で管理してください。置く位置は、後手番の人が決めて下さい。また、対局時計のボタンは、駒を動かした手で押すこととします。この原則から逸脱した場合は、反則負けとすることがある。

⑧ その他は、日本将棋連盟規定による。また、対局者同士で解決出来ない疑義は、審判長の裁定に従ってください。

**大会スケジュール変更案**

**９：００　スタッフ集合・準備**

**９：１５　選手集合・抽選**

**９：２０　開会式**

**９：３０　予選１回戦　持ち時間２５分３０秒**

**対局終了後の感想戦５分くらい必要**

**（選手にとって感想戦は必要です。また、選手の興奮を冷やすため？）**

**１時間３０分見ます。（今は１時間２０分）**

**１１：００　予選２回戦**

**１２：３０　昼食**

**１３：００　予選３回戦**

**１４：３０　決勝１回戦**

**１６：００　決勝・３位決定戦・３０分３０秒**

**１７：３０　終了・表彰式・後かたづけ**

**アマ名人戦県大会対戦方法案**

・現状の問題点

　予選２勝通過２敗失格、８名による決勝トーナメント。

予選３回戦が同組対戦になっている。（全国大会も同様）

　３回戦、同じ対戦組合せになる可能性がある。非常に味が悪く、もったいない。

　選手も同じ相手で、２敗では、面白くないのでは？２連勝者の空き番はどうなのか？

**・案１**

　現行と同じ方式。予選３回戦は隣のブロックで組合せを行う。

　８名による決勝トーナメントは現在と同じ。

　連盟普及部に全国大会も変更検討依頼（非公式に）等したが、返答はない。

　会長名で公式に要望書を提出か？

**・案２**

　予選２勝通過方式はどうなのか。

　２敗で失格は、選手はもっと対局したいのではないのか。

　地区予選を勝ち抜いた１６名の県大会である。

　１．ＡＢ８名ずつのブロックに分ける。

　２．３回戦のスイス方式にする。

　３．１位と２位を決める。

　４．翌日、各ブロックの１－２位対戦の準決勝と決勝を行う。

　５．良い点

　　　全員が３回対戦できる。（２連勝の空き番がなくなる）

　　　初日３局で持ち時間を増やせる。（現在３０分を全国大会と同じ５０分はどうか）

　　　対局内容が良くなる、観戦記にも好影響。棋力向上につながる。

　　　現在は、初日４局を行っている。

　６．悪い点

　　　順位の決め方、３連勝は１名で１位決定

　　　しかし、２位は２勝１敗が３名出る。

　　　順位は、スイス式の点数制を採用する。（試算では２連勝者が２位になる可能性大）

　　　選手が納得するかどうか。



**・案３**

　案２の２まで同じ

　３．ブロックで１位－４位を決める。

　４．８名で決勝トーナメントを行う。

（ブロック順位で入る位置を決めておく）

　５．翌日、準決勝と決勝

　６．良い点　現行とほとんど同じ。

全員が３回対戦できる。棋力向上につながる。

　７．悪い点　順位の決め方、３連勝は１名で１位決定、２勝１敗が３名出る。

　　　順位は、スイス式の点数制を採用する。（試算では１－４位まで決まる）

選手が納得するかどうか。